

令和6年度とうきょうすくわくプログラム活動報告書（0歳児）

施設名	小平市立大沼保育園
施設所在地	小平市大沼町2-2-8

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

カラフルなおもちゃに関心がある姿が見られ、手に取ったり目で追ったりしている。また、制作遊びの中で絵の具にも抵抗なく触れているため。

2. 活動スケジュール

- ・おもちゃで遊んでいるなかで、絵の具を紙に出し、ビニール袋越しに触れる。
- ・はじめに保育士等が触れてみせ、関心をもっている姿が見られはじめたら絵の具に触れることができる範囲を広げていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・絵の具、画用紙、ビニール袋
- ・遊んでいるなかで保育士等が絵の具に触れてみせる。
- ・触れやすいように床で行い、手だけではなく、足やお腹など全身で絵の具の感触を感じられるようにする。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

絵の具にビニール袋越しに触れる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・絵の具を用意するとビニール袋越しに触れて感触を味わっている。
- ・保育士等が触れていると、近くに来て絵の具が動く様子や混ざる様子をながめたり、手を伸ばして触れようとしたりしている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・初めての活動に慎重になっている姿が見られたが、保育士等や他児が遊んでいると、少しやろうとする姿が見られはじめた。同じ活動や少し発展させた活動にして継続していくと広がっていくのではないかと感じた。
- ・発達の差が大きい年齢なので、その子どもにあった触れ方をされていて、ビニール袋越しという設定がよかったと思った。
- ・よく見て目で追っていたので、色の名前を保育士等が言いながら、色を意識できるようなかかわりを意識していきたいと思った。

令和6年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書（2歳児）

施設名	小平市立大沼保育園
施設所在地	小平市立大沼町2-2-8

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光と影

<テーマの設定理由>

幼児クラスが手作りのとんぼのメガネを作り、そこにセロファンが貼ってあるのを見て、自分たちも使ってみたいと興味を持ったため。

2. 活動スケジュール

- ・セロファンを光に透かして遊ぶ。
- ・部屋を暗くした中でライトテーブルを使っていろいろな素材を光に透かして遊ぶ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・セロファン・ライトテーブル・懐中電灯・オイルタイマー
- ・光が透けるようなカラーストーンやブロックなど

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・セロファンを用意して、自由に遊べるようにする。
- ・部屋を暗くしてライトテーブルや懐中電灯でセロファンや光が透ける素材の玩具に光を当てて、影を写したり、素材が光る様子を楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・光に透ける様子を見たときに「きれい」と目を輝かせている。
- ・セロファンを覗き込んで景色の色が変わることを楽しむ。
- ・セロファンの色を重ねてどんな色が出来るか試行錯誤している。
- ・こんな色ができた保育士等に教えてくれる。
- ・いろいろな素材の影を写そうと考えている。
- ・玩具を貸して友達とやりとりしている。
- ・飛行機や雲の玩具を使ってイメージを広げてごっこ遊びをしている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・光を見て感動したり心が動かされている様子が見られた。
- ・興味のあることで遊ぶときは集中してよく遊んでいる。
- ・試行錯誤することで考える力を使うことができています。
- ・自分の発見したことを友達や保育士等に伝えあうことで、コミュニケーションのきっかけになっている。
- ・イメージを膨らませることで想像力が養われている。

令和6年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書（3歳児）

施設名	小平市立大沼保育園
施設所在地	小平市大沼町2-2-8

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

- ・乳児組からクレヨンを使った描画や絵の具遊びに親しみ、色水遊びをするなかで簡単な混色の仕組みに気づく姿があった。
- ・他の遊びを楽しむ中で、自分で考えたことを試したり、友達から刺激を受けて真似したりする姿が増えているので、実験のように試行錯誤する環境を整えたい。

2. 活動スケジュール

- | | |
|-------|--|
| 11月 | テーマの設定 |
| 12～2月 | 実践・記録 <ul style="list-style-type: none">・混色の仕組みに興味を持ち、試行錯誤しながら混色を楽しむ。・混色の仕組みがわかり、イメージした色を作ってみる。 |
| 3月 | 振り返り |

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・室内でこども達がしたいときに絵の具、筆、パレットを出せるようにした。
- ・3原色で混色をたくさんしたあとに白も出してみる。
- ・色水遊びではジャグを用意して混ぜる色水の割合や量などこども自身が試行錯誤しながら取り組めるようにする。
- ・3原色のセロハンを用意し、室内外で光にかざしてみたり重ねたりできるようにする。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・室内で雨をテーマに雨の色を考え青と白を使って雨の色を作ったり、垂らし絵を行うことで絵の具（水）が下に垂れていくことに気づいたりした。
- ・夏期にジャグを使用して、好きな色、自由な配分で混色を行うことで色・混色の仕組みへの興味と理解を深めた。
- ・ジュース屋さんごっこにあたり、自分の作りたい味のジュースの色を決め、混色した色水で染め紙を行なった。
- ・トンボの眼鏡をセロハンでつくり、セロハンを通してみる景色の色の違いに気づいた。室内にもセロハンを用意したことで、重ねると色が変わることに気づき、色水で行った混色の仕組みを思い出して工夫して行っていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・垂らし絵では保育者が紙の上部から垂らしてみたことで真似して行っていた。下に垂れていくことに気づいて「上からやるんだよ」と言っていた。青や白、水色の絵の具を重ねて色が混ざること気付く子もいる。
- ・ジャグに入れる絵の具の色を何色にしたいか、こども達に聞きながら用意する。好きな色を自由に選べるようにし、色水を入れる容器も色がよくわかるような入れ物にした。「このいろ〇〇ジュースみたい」とジュースに見立てていた。
- ・ひまわり組の氷を使ったジュース屋さんごっこに参加したことで興味を持ち、同じように作った色水で「氷を作りたい」と話す。製氷皿を用意し、作った色水を入れて凍らせ、クラスでもジュース屋さんを「やりたい」とのことで、お店屋さんごっこに発展していった。
- ・セロハンを自由に重ねて混色を楽しんでいた。園庭に持って出ると、セロハン越しに色々な物を見ていた。日向ではセロハンの色が地面に映り、日陰では色が地面に映らないことに気付く。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・こどもが自分で選んで、様々な事象に気付けるように素材や容器を準備することや、先回りして保育士等が気付いたことを言葉に出すのではなく、こども自身が気付く機会を持てるように意識して関わっていくことの大切さを感じた。
- ・色の遊びを通して、素材は絵の具だけでなく氷やセロハンなど多岐に渡って有ることに気付いた。
- ・発見したことやこども達が面白そうにしていることを、なるべく早く次の遊びに繋げていけると良い。

令和6年度　とうきょう　すくわくプログラム活動報告書（4・5歳児）

施設名	小平市立大沼保育園
施設所在地	小平市大沼町2-2-8

1. 活動のテーマ

<テーマ>

- ・ 光と影
- ・ 色

<テーマの設定理由>

セロファンを使った制作をした時に、光が透ける様子に興味を持ったり星空作りをした時に光と影が作り出す世界を楽しんだりしていたので、子ども達の興味、関心を深めるため。

2. 活動スケジュール

- ・ 光と影に関する絵本を見る。
- ・ 影ふみ等、影を使った遊びで興味を深める。
- ・ 様々な色に触れ、色づくりを楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ 光や陰に関する絵本等を用意する。
- ・ 室内でも光と影を感じられるようにモビールを飾る。
- ・ 感触あそびの中で色を取り入れられるように、絵の具や食紅を用意する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ 影ふみのゲームを行う。
- ・ カラーセロファンを使った制作
- ・ 色水あそび、氷でかき氷屋さん、寒天でジュース屋さん等の感触あそび
- ・ 氷作り

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 影ふみは影を見ていないと踏まれた実感がないため
ルールの理解が難しいこどももいたが、木等の大きな
影の中に入ると自分の影が消えることにも気がつく姿があった。
- ・ 色水あそびの中で、色が混ざる様子を友達と見せ合いながら
楽しんだ。
- ・ ジュース屋さんごっこに発展して友達とのやりとりを行う。
また、透明なカップを用意したことで別々の色が入ったカップを
重ねて色が2層になることを発見した。ジュース屋さんの幅が広がった。
- ・ ジュース屋さんから氷を使ったかき氷屋さん、
寒天を使ったタピオカ屋さんとあそびが広がった。
水だけでなく、様々な素材の色の混ざり方や色の見え方を楽しんだ。
- ・ 冬に氷ができている姿を見つけて「氷を作りたい。」の
声が上がって氷作りを行った。
気温の変動が激しく氷作りは失敗したが、夏の木陰（日陰）で
涼んだ経験から「陰がある方が寒いから氷ができると思う。」と
こども達自ら考えて取り組むことができた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・三原色の色水遊びだけではなく、絵本を使って白や黒を混ぜての色の变化に気づいたり、ジュース屋さんの活動で少しずつ色が変わっていくことを楽しんだり、こちらが工夫して色水遊びを提供していくことで、色についてはこどもの興味も広がり深めていくことができた。
- ・クモの巣マップを使ってこどもの姿、あそび、それぞれのつながりを目に見えるようにしたことで、保育士も頭を整理し次につなげるためにはどうしたらよいか考えやすくなった。
- ・陰については、色よりも資料を集めることができず、うまくこどもに興味をもたせることができなかった。
- ・色と同じように目で見てわかるようにクモの巣マップを作り、保育士があそびの準備をこどもの興味に合わせてできるようにし、見通しをしっかりとっていくことが大切だと学んだ。
- ・光と陰のおもしろさについて保育士もじっくり考えていきたいと思う。